

琉球大学学術リポジトリ

1960年1月の安保条約改定時の朝鮮半島有事の際の 戦闘作戦行動に関する「密約」に係る調査関連文書 No.4

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-15 キーワード (Ja): 朝鮮半島有事, ロジャース国務長官 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43880



大臣
事務次官
外務審議官
近藤外務審議官
官房長

北米局長
参事官
北米課長

極 秘
無 期 限
部 の 内
号

佐藤総理・マクナウ国際局長
会議録

14日午後5時頃、(1)時内、総理、マクナウ
国際局長と会議された。記録、次の通り

(出席 三木大臣、本村副官長、下田大佐、森外務
審議官、東郷北米局長、渡辺(記録)、近江 島内)

副官長、ワニキ、次官補、ハルバリン補佐官、ワニ
川(通訳)

総理：こちらから先に話をしようか
局長：総理からどうぞ

総理：今日大渡辺から、本村副官長の話があった。こ
ういふ話に驚いた。虫薬所に、本村の虫薬の袋

1000の虫薬の袋が、切下りの袋が来た
と云う話があった。何か、虫薬の袋が、

GA-6

外務省

本村が
日本は切下りの袋は、
かたがた

同時に、例の5億ドルの問題について検討し
て、今日まで申上りした。そのうち3億ド

ルは、金額が少なくて、申上りした。そのうち1億
ドルは、小委員会に、検討して、

例、1億と日本は事情が、
日本は事情が、
日本は事情が、

例、1億と日本は事情が、
日本は事情が、
日本は事情が、

例、1億と日本は事情が、
日本は事情が、
日本は事情が、

例、1億と日本は事情が、
日本は事情が、
日本は事情が、

GA-6

外務省

5
返理： 同感あり。東南アジア諸国を丁度した
か。米国の援助、自由と平等の努力は高く評
価されたい。尤も、ワシントンに和平が実現す
るに先立ち、18(日) フォーレン・リレーションズ
委員会の
オーストラリアに訪れた時、米兵増加決定を述べ
た。この時、国民の支持が来り方々ある。
日本に一部には、ワシントン内政、北緯等には
無理解の発言と好まぬが、米国の援助
努力に対し、好ましいと思ふ。行政の中心の米
国人の中心は米国人。自分のワシントン訪問
は甚だ感懐が深く、在米米兵の短縮を望む。之を
バスターはワシントンに社会主義の残念を
来す。尤も、42(日) 記念にワシントン人々
民衆の新しい周遊を望むべきである。

6
我々、米軍の規律厳正に深く感服し、この
に感服した。
長官： 返理の今回の行動と発言は、上に申し上げ
たリーター・レポートの一致の現われである。これは勇
気ある行動であり、日本がアジア諸国民の自由
状態に同心をなすというべきを米国民に信
じてほしい。これは米国人である。
返理： 感謝あり。望むべきは、米国のドミノの
倒れをワシントンに食せぬこと。この戦いは、何
れにせよ、我々の中心は米国人である。尤も、
難しむべきは、我々の中心は米国人である。尤も、
米国民をいかに支えたいか。和平に努むる。何
かの支えたいか。下午に訪る。北緯、国。

何か 呼ぶか 呼ばれたらと 逆に 伺うべきかと
 何か 条件を 提示する 必要があるかと 協
 力した
~~長官~~ 長官： 道理は、他の国への旅行に 言及すべき
 か。 ビルマ、マレーシア、インドネシア、フィリピンに 関する
 理由： ビルマは 諸承知の如くに 中華と 仲良く
 したが、 マレーシアは、 中華と ビルマを 同胞扱
 した。 諸君は、 必要に 応じて 反響を受け、 ビルマ
 には、 独立したものと 見て、 ビルマに 対して
 うに 轉相の 協力を すべきかと 伺う。 轉相の
 ためには、 中華と 陸境との 関係、 中華と 手切
 りの 関係に 注意を 払う。 新近に 戦時中 日本に 協
 力、 日本に 謝意を 受け、 結果、 中華寄り

意見を 述べ、 自分から 親切にして くれ
 独立の 意気に 協力した
 長官： マレーシアの 領土に 対して 半島の 努力に
 対して 協力を せよと 求め、 長官
 理由： 轉相の ためには、 中華と 陸境との 関係と
 解決した。 マレーシア、 ~~シンガポール~~ シンガポールは 中国
 系が多く、 中国問題には 一切 関係なく、 中華
 台湾に 対して 承認した。 中国の 立場に 対して、 マ
 レーシアは 国境附近の 共産主義者と 協力
 して 解決した。 半島の 撤退して いく 国
 (マレーシア)
 同時に 早く 平和に なるように 中国の 立場に 対して
 長官： マレーシアの 諸君に 対して、 中国の
 新近に 中華と 関係した。 北京に 対して 公館を
 開設した。 マレーシアの 情報に 何か 取れる

remittance 日本国民の希望の返り金
は保証しない。突然の出来事。この場合

島は必ず返還されることになっている (They
are bound to return) 同様に返還に
(保証)

返り金をなく 半島の基地にあり。中共の接
触感に好都合。安(守)守(衛) 接(合)接(合)

此に反対する非(保)保(衛)の保護 第一連の同(連)
の unwritten premise は 保護と受(保)保(衛)

が 保護(保)保(衛)の共通の利益のため、保護
(保)保(衛)の必要(保)保(衛)の行動を可能にする

このようにして 本島(本)本(島)の軍事基地を
非(保)保(衛)の露(保)保(衛)にさらすことになる
(exposed)

このようにして 本島(本)本(島)双方の利益に反
対。日本(本)本(島)の基地を

(は日本の政府、国民)

operate するに許すの必要。この目的
は、この場合 究極的に 接(合)接(合)の使用

に与(保)保(衛)の必要(保)保(衛) 半(保)保(衛)の必要(保)保(衛)
の必要(保)保(衛) 日本(本)本(島)の必要(保)保(衛) 行

動(保)保(衛)の必要(保)保(衛) 此(保)保(衛) operate する
必要(保)保(衛)に許すの必要(保)保(衛) 日本(本)本(島)の必要(保)保(衛)

このようにして 作(保)保(衛)の自由(保)保(衛)の必要(保)保(衛)
の必要(保)保(衛) 目的(保)保(衛)の必要(保)保(衛)の必要(保)保(衛) 国

民(保)保(衛)の必要(保)保(衛) 自分(保)保(衛)の必要(保)保(衛)の必要(保)保(衛)
の必要(保)保(衛) 必要(保)保(衛)の必要(保)保(衛) 接(保)保(衛)

球(保)保(衛)の必要(保)保(衛) 相互(保)保(衛)の必要(保)保(衛) 今(保)保(衛)
の必要(保)保(衛) 接(保)保(衛)

証(保)保(衛)： 今(保)保(衛)の必要(保)保(衛) 証(保)保(衛) 日本(本)本(島)
の必要(保)保(衛) 自分(保)保(衛)の必要(保)保(衛)の必要(保)保(衛)

まず、10月4日半夜に状況が他国へ支配
下にあり、国民に知らせるべき
である。更に、2つの国を同時に達成する
法があるのか、迅速に軍事的力
が弱まる、新しい軍事的力に迅速に
動く必要はない、両者が矛盾せずに満
足する方法がある。特介して、状況に半軍
事的な安全があり、日本が弱まるのは
心配はないと言った。更に、自分の軍事
行動は弱まるから安心すると言った。即
ち迅速にやるべき、一定の期間、一定の目
途がある。原潜をインターフェイス
入りに作る、国民教育の必要あり
この2つを先に生かす、日本が真の

日本友好親善関係の改善のため、下午に日本
は、日本関係の改善が速くなる、何年にと
うな法を決めよう、更に、両国の合意
の達成が迅速に達成されるように
日本は、先づ、今の状況に接基地、
自由貿易と論議するのは早い、帰るべき時
既に論議がつくべきではない、今は討論
が先だ、
日本国民に希望する、日本友好親善の
ため、日本は、日本関係の改善が速くなる、
と思うべきではない、更に、国民感情
が、日本を取ってやるべきではない、
するべき
附： ~~日本国民に希望する、日本友好親善の~~

三本大元: 施政権過渡の方針の下に外交上への
 与り協力を仰ぐ。これからの過渡期
 のとらえ(その後の政治的困難
 への)

長官: 小本大元は政治的責任を分担し、同時に
 小本大元のコミットメントの要請がある。この
 2つの向の両方、時に矛盾する。小本大元
 の、~~これは~~ work on (その後の)

経理: 2020年、過渡期の緊急に重
 要な219(1) 1990年等は自分だけの
 こと、韓国、経済等、半軍に近づいた
 長官: 日本国民の~~懸念~~ 懸念、政治的責任

命、この20日経に2021年、明日大定起か
 の不況(その後の) この地域への安全
 ・~~懸念~~ ^全 懸念
 障に2022 経理の言小本大元、同成への
 経理: 2019年と上段に扱われ、遂に日本
 の~~懸念~~ ^{懸念} 懸念
 肉体への心、大多数の国民は、本
 に許さず(1)と希冀(2021) 国民に希冀
 こと、協力や得るべき分を、この
 子基地の維持に特に大切
~~掛~~